

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0570408054		
法人名	有限会社らいふ		
事業所名	グループホームらいふ		
所在地	秋田県大館市字長木川南343番地		
自己評価作成日	令和3年2月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.akita-longlife.net/evaluation/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1		
訪問調査日	令和3年2月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

生活の場として家庭的な雰囲気のもと入居者の方々が残された能力を最大限に活用し、健康維持出来る働きかけをし、毎日が生き生きと安心して楽しく生活してもらえるように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

その人の職歴や家庭内の仕事で積んだ経験が今の生活に影響していることを会話の中で感じ取り、その経験を尊重し、利用者の思いに寄り添っている職員の支援の姿勢が感じられます。2階に居室のある利用者は階段の昇り降りをする事で脚力の低下防止に繋げており、利用者それぞれが居室やホールで自由に過ごしており、家庭的な雰囲気を大切にして安心して生活できる支援が行われています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を職員が認識しやすい場所に提示し、日頃から話し合い、職員の意識を高める取り組みをしている。また、理念を分かりやすく「安心して楽しく生活してもらおう」とし職員の方針として日々実践につなげている。	利用者との日常の関わりを通してその人らしく安定した生活ができるよう取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、回覧板を通じ町内の行事を知ることができたり、保育園が近いので散歩時保育園の庭で遊ぶ子供たちを見に行ったり、近所の方と話したりし、近隣との交流を深めている。	ボランティアの来訪等、コロナ禍にあって諸行事が中止となり、近隣の方と交流の機会は途絶えています。感染症の終息を待って再開を予定しています。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	運営推進会議にて町内会長、行政担当者の方、家族の方に事業所の支援について説明し、町内の相談の拠点になることを説明している。相談に来られた方には、事業所を案内し相談を受けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の都度、現在の事業所の状況、活動内容を説明し、意見交換の中からサービス向上に活かすことが出来る様に取り組んでいる。また、町内会からの働きもあり、地域内に生活する中学生のボランティアに訪問していただき、入居者の方に喜ばれている。(コロナウイルス感染予防対策のため入居者との触れ合いはできなかったが、施設の外側の窓清掃、菜園の後始末の手伝いを行ってもらった)	会議は現在職員のみで行っており、行政、民生委員、家族会に資料を送付しています。会議メンバーとの繋がりは続いており、意見等をサービスの向上に活かせるよう取り組んでいます。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者とは、運営推進会議において定期的に情報提供を受けている。	書類提出のために窓口に出向いた折に不明点を相談し、また情報交換をする等して連携を図っています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内研修を行い、禁止の対象となる具体的な行為、および拘束による身体的精神的苦痛を理解し、拘束はあってはならないことを自覚してもらっている。また、入居者がその人らしく生活できる取り組みについて話し合っている。	全職員が内容を周知し、状況に応じて話し合いながら身体拘束をしないケアに取り組んでおり、やむを得ない場合の書類も整備しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法について職員会議の場や毎日のミーティングで学ぶ機会を作り、職員同士で言葉の暴力がないか、不適切な対応がないか等を見直し、入居者が安心して生活できる配慮をしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修で学ぶ機会を作り、入居者の必要に応じ支援している。地域包括センターと連携をとり活用できる体制にある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約時、利用料金や医療行為が必要な場合の退居等について詳しく説明し納得していただき、また、健康面では状態変化時の連絡方法や希望受診病院等を伺っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口や苦情への投書箱があることを、入所時に本人・家族に説明し、不満や苦情時に使って欲しいことを伝え、職員が速やかに解決することを説明して取り組んでいる。また、利用者からは日々の会話の中から、家族からは面会や電話連絡時に意見や要望を伺い運営や支援に反映させている。	家族は気軽に話しかけてくれており、管理者の方から心配事はないかどうか確認しています。家族の意見は日誌に記録し、対応を検討しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や毎日のミーティングで出された職員の意見や提案は、話し合いの結果をふまえ取り組み実施している。	会議、ミーティングに代表が参加している他、職員の意見を随時聞くことができる環境にあり、代表は現場の状況をよく理解していることから意見を聞きながら運営に反映できるように努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の意見を日頃から聞き、働きやすい環境作りに力を注いでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得や研修には勤務の配慮、費用の援助を行っている。研修の案内が来たときは職員全員に知らせ、参加の希望を取り、研修に参加した職員は職員会議の場で復命し、全職員が学べる機会を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会へ参加した時、その機会を利用して他の事業所の方と交流を図り、情報や意見交換を積極的に行うようにしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される前に本人に事業所を見ていただき、会話の中から不安に思っている事や希望している事を把握し、入居後の支援が本人にとって適切なものになるように取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族に、入居されてからの本人の生活内容を説明し、理解を求め、家族からの希望を聞きケアに活かしている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が持っている残存機能を最大限に生かす工夫(洗濯物の整理、お盆・食器拭き、野菜の下ごしらえ、皮むき等を通して)し、食事作りにも料理の仕方を聞いたり、職員と共に生活している意識を高めている。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	機会ある都度、家族に状況を説明し、面会の時はゆっくり会話できるようにお茶を用意していたが、今年度はコロナ禍のため玄関での5分間の面会で了解してもらっている。また、面会時に心配事はないか聞き、ケアに活かしている。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話等で連絡が入った時、事情を説明し、出来るだけ本人と電話で会話してもらう。	家族とは面会や電話等でその関係が継続できるように取り組んでいます。利用者はホームを自分の家と思って生活していることから職員は家族であり、訪問理容の方は顔馴染みの間柄です。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の輪の中に職員も参加し、話を聞いたり、話しかけたりしている。トラブルが発生する状況時には未然に防ぎ速やかに調整している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時に相談を継続する事を説明している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の中から会話の仕方、表情、行動等の状況を把握し、その人らしい生活の継続に努めている。意思疎通が困難な方はご家族から意向を伺い検討している。	日常の関わりを通して要望の把握に努め、ふと話したことからその人の思いに気づけるように心がけ、日誌に記載して共有しています。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の事前面談・アセスメント・ケアマネジャーの情報提供や今までの暮らしを、本人・家族から伺い、生活の場として戸惑う事なく生き生きと過ごせるように配慮している。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のミーティングや個々の生活記録を通して現状を把握し、毎日の生活の中から本人が出来る事を見極め働きかけている。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、職員等と話し合いながら現状に即した介護計画を作成し、また、本人の意向を反映した計画が出来るよう努めている。	諸記録を基に職員と話し合い、本人、家族の意向を反映して介護計画を作成しています。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を記入し、情報を共有し統一したケアがなされるよう休みの職員も必ず確認出来る体制を作っている。また、計画の見直しにも活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	警察への協力依頼をはじめ、防災への取り組みについて消防署にお願いし、近隣の方々への働きかけを行っている。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は入所前からの医師が継続できるようにしており、かかりつけ薬局との連携も図っている。定期的な往診による治療を受け、往診結果は家族がいつ来られても説明が出来るように個々のファイルを作成し、職員全員が対応できる体制をとっている。状態の変化により本人・家族の希望があれば医療機関を紹介等の支援をしている。	協力医がかかりつけ医となり、訪問診療も行われています。町内会長が歯科医で顔馴染みでもあり、受診の必要があれば対応していただけることになっている他、薬局からは処方薬を届けていただいています。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職の配置で介護職と連携して状況変化に対応している。急な受診の場合には、協力医療機関との連携を図っている。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけ医の紹介によりスムーズに入院し、情報提供書等による情報交換や入院中には病院関係者と連絡を取り合いながら退院に向けた体制をとっている。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化した場合、事業所で出来る医療処置の限界を説明し、入院が必要な場合の理解を得る事が出来るようにしている。重度化した場合、家族に医療機関への同行を依頼し、主治医、家族、職員と話し合い連携を図っている。要介護3以上の方は、特養への入所手続きの支援を行っている。	看取りには対応しておりませんが、かかりつけ医が入院を勧めた場合には病院のケースワーカーと連携を図り、家族が安心できるよう支援しています。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内研修を行ったり、救急時の対応を日頃から職員にマニュアルに沿って学んでもらっている。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署員の指導を受け、火災避難訓練を定期的に行っている。風水害等の防災についての研修も行い、意識も高まっている。火災時の避難場所が町内会館で町内会、家族との協力体制も出来ている。	非常口の段差を解消し、有事にはホーム向かいのアパートの住人や民生委員、消防団員の協力が得られることになっています。水害が想定される場合は事前の避難を申し合わせており、指定避難場所の設備も確認しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃から一人一人の人格の尊重とプライバシーの保護について話し合い、職員同士で気がついたら速やかに解決している。	認知症状を理解することがより良いケアに繋がることを日頃から職員に話し、その人を尊重した対応ができるよう努めています。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ケアの都度本人に話しかけ、本人の希望を重視している。利用者が自分で決めて納得し、利用者本位の支援が出来るようにしている。また、表情からの思いの把握に努めている。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースに合わせた暮らしを支援し、本人が希望を出しやすい雰囲気を作るように取り組んでいる。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の着替えは本人の希望に沿っており、理容も馴染みの店に行ったり、事業所に来てもらったりしている。また、化粧品を持参しおしゃれを取り入れている方には声がけし見守っている。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その人の能力に応じて、入居者と職員と一緒に準備や食事、片付けを行っている。調理の音や匂いで会話を楽しんでもらっている。	重度の方も皆と同じテーブルで職員のサポートを受けながら食事を摂っています。干し柿をつくったり、ホームで育てた野菜で会話が弾み、楽しみが感じられる工夫をしています。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重測定により栄養状態を把握している。1日の食事量・水分量を把握し食事量の減少がある場合は、食事形態を工夫している。また、水分を摂りたがらない人はこまめに水分摂取を促している。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後のうがい、口腔状態の確認、起床時就寝前の歯磨き、義歯の手入れ、うがいを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表によりトイレの誘導時間を個々に把握しトイレ誘導し、失禁などに速やかに対応している。夜間のトイレは場所が分かるように電気を点けておいている。個々の歩行状態から夜間はポータブルトイレを使用していただいている。	チェック表を活用し、できる限りトイレで排泄できるよう支援しています。ポータブルトイレに抵抗感のある方への対応や排泄用品の使い方を工夫する等、状態に応じた支援が行われています。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表を確認して便が2～3日ない時は、食べ物の工夫、牛乳や水分を補給したり、散歩や軽い運動を行っている。改善されない場合は医師に相談し下剤で調整している。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週2回に設定しているが、利用者の希望や状況に応じて、随時の入浴が可能な体制をとっている。	週2回を基本としていますが、夏場はその限りにあらず、柔軟に対応しています。重度の方も工夫して対応し、清潔が保てるよう支援しています。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1日の生活のリズムから個別に休息できる配慮を行っている。また、昼夜逆転をしないように日中の活動を見守り、就寝に向けたリズムが安定するように配慮している。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が個々の服用している薬の内容が分かるように服薬ファイルを作り、処方の変更の時は日誌にて職員が周知徹底するようにし、服薬確認を行っている。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家族から生きがいに楽しんでいた事を聞き、調理、畑や花の手入れ、漬物作りなど、事業所で行う事に職員と一緒に参加していただいている。また、日々の洗濯たたみや食事の片付け等、力を発揮できるよう声がけしている。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	1人で外出し買い物や散歩をし戸外に出るのを生きがいにしている人を支援し、職員付き添いでの散歩への取り組み、家族の協力による帰省や外出、季節季節の変わりに、事業所での遠足への参加の支援を行っている。	感染症発生前のようにドライブ等の外出支援を行うことができませんが、近所を散歩したり、玄関前でお茶を楽しんだりして外の空気を吸う機会をつくっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持できる人には、お金を持っているという安心感が持てるように支援をしている。ご本人からの物品購入希望には対応している。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族との電話は事務所や自室で子機を使ってゆっくり話をしてもらっている。手紙等の代筆や手紙やはがきが届いた時は読んで聞いてもらっている。お礼の電話をし、本人と話していただいている。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間～食堂～台所が一体になっており、職員が調理場に常時いるので、入居者の状況を把握でき、また、会話の中から不快感があるか、混乱していないか等すぐ知る事ができる。温湿度計で室温や湿度は管理されている。居間は季節に応じた飾り付けをしている。	温度調整、換気に注意して快適な共用空間となるよう配慮しています。干し柿をつるした写真等がホールに掲示され、季節を感じるすることができます。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル、ソファ等で仲の良い入居者同士がくつろいでおり、季節の花を飾ったり飾り付けをしたり、入居者の方々の作品の掲示をしたりして居心地よく暮らしている。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使った馴染みの家具を用意して、家庭的な雰囲気にし、居心地よく過ごせる工夫をしている。	入居時に馴染みのものの持参を勧め、その人にとって安心して生活できる場所となるよう配慮しています。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の身体機能を活かすため、夜間のポータブルトイレ設置、位置の工夫、手すりの利用、段差スロープの設置などを行っている。		